



どうにかする力

泗水小学校だより
R4. 11. 22(火)
No. 32
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに
【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成
～「生きる力=どうにかする力」を育む教育活動を通して～

泗水小「なかよしフェスタ」～ご協力ありがとうございました！～

11月18日(金)に、泗水小特別支援学級(こすもす学級)の学習成果発表会である「なかよしフェスタ」を本校体育館で行いました。7クラスあるこすもす学級ごとに趣向を凝らしたコーナーを設置して、6年生がリーダーシップを発揮しながら、手作りした作品の販売やゲームなどを行い、児童同士や保護者の皆さんとの交流を楽しみました。

こすもす学級の子どもたちは、これまでの授業において、販売する作品の製作やゲーム、景品等の準備、お金の計算方法やお客さんとのコミュニケーションの仕方を学ぶなど、準備や練習を頑張ってきました。その成果を発揮して、各コーナーのあちこちから楽しい歓声が上がリ、交流の輪が広がっていました。当日は、多くの保護者の皆さんに来校していただき、お子さんと一緒に楽しみながら、子どもたちの頑張りの様子や成長の様子を参観いただきました。お忙しい中に来校いただいた保護者や家族の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

なお、今年度は、新型コロナウイルス感染対策として本校で行いました。来年度以降は、菊池市内小・中学校合同での「なかよしフェスタ」に参加する予定にしています。



各クラスから出し物の紹介



ボールすくいの景品選び



クレーンゲームと射的

☆校長室から独り言29☆

親子で乗り越えたい中3「15の春」①…小学生の保護者の皆さんには少し早いかもしれませんが

朝夕の冷え込みで冬が近づいていることを実感する季節となりました。寒くなってくると、ちょうど10年前、息子の公立高校入試の合格発表の日を思い出します。

息子も父親と同じで、中学時代は野球と遊びに夢中の3年間でした。進学先は、「野球と勉強を両立したい」と県立の普通高校を志望していました。県中体連大会が終わり、塾に通い始めましたが、急に成績が伸びるわけはありません。しかし、本人は、「なんとかなるだろう」と考えていたようです。

私は、息子が中3になった4月から、教頭として天草の龍ヶ岳小に単身赴任をしていました。公立高校入試の合格発表の日、学校で電話を待ちました。合格発表が始まった時間から1時間近く過ぎたとき、息子から携帯に電話がありました。か細い涙声で「ダメだった」と一言。その後、妻からも電話があり、妻も涙が止まりません。私は心配になり、水曜日でしたが、夕方に1時間有給休暇をもらって天草から自宅に帰りました。

自宅の玄関を開けると中は真っ暗。居間の電気をつけると、妻と息子が二人で泣いています。話をしようとしても会話ができない状況です。「どんなに後悔しても結果は変わらない。『どこで学ぶか』ではなく、『そこで何を学ぶか』が大事だ。合格している私立高校に行き、野球と勉強の両立をやればいじやないか。」私は、息子にグローブとボールを持ってくるように言い、車で私立高校の野球部のグラウンドに行きました。冷たい雨が降りしきる真っ暗なグラウンドに、車のヘッドライトを照らし、ずぶ濡れになりながら親子でキャッチボールをしました。「このグラウンドで野球をやり、勉強も両立させる。3年後、自分を不合格にした高校を見返してやれ。」息子は泣きながらキャッチボールをしていましたが、少しふっきたのか、その後グラウンドを10周ほど走ってから自宅に帰りました。随分スッキリしたようでした。

小学校勤務しか経験がなかった私は、息子の姿から、中3の「15の春」の厳しさを初めて知りました。もっと早くから息子と向き合い、進路のことも一緒に考えてあげればよかった。親としての力のなさを痛感しました。そして、この試練が息子の人生にとってプラスだったと言えるようにしてやりたいと思いました。